

専修大学企業家クラブ 新年会

コロナ禍の大学と生成AIへの対応

専修大学 神田キャンパス10号館10082教室

2024/2/5

経営学部教授 馬場杉夫

自己紹介

馬場杉夫（ばばすぎお） グーグル で検索すると・・・

略歴： 1966年 東京都港区で生まれる 本籍地：長野県上田市

慶應義塾大学商学部 1989年3月 卒

専修大学経営学部講師 1995年4月 入職

同 教授 2003年4月 現在に至る

同 学部長・理事 2012年-2016年

学長代行 2016年4月-2016年8月

同 経営学研究科長 2021年4月-

博士（商学、慶應義塾大学 2005年）

UCLA(2003年9月-2004年8月) Visiting Scholar

Trinity College Dublin(2017年9月-2018年3月) Visiting Professor

三建設備工業株式会社 監査役 2013年6月 現在に至る

専門： 戦略経営、人的資源管理 手法は、フィールドスタディ
20回以上の大規模アンケート調査と100社以上の実態調査

主著：『なぜ組織は個を活かせないのか』中央経済社、2019（単著）

『マネジメントの航海図』中央経済社、2015（共著）

『深化する日本の経営』千倉書房、2012（共著）

『個の主体性尊重のマネジメント』白桃書房、2005（単著）

今日のアウトライン

コロナと生成AIについて
大学の取り組み

教員・学生の反応

良くなった点と懸念材料

専修大学で取り組むべき課題

コロナ騒動：大学の取り組み

- 2020年1ヵ月半遅れてオンラインでスタート。
Google classroomを利用し資料を電子的に配布
オンラインツールは、各自で使いやすいもの
当初は、zoomとgoogle meetが混在
➡現在、Google meetへ原則統一
- 専修大学は、ネットワーク情報学部の教員を中心に教員の勉強会を開催。機材は、各自で準備
➡現在、一部の授業では、スピーカー・マイク・カメラ一体型を利用、欠席者へ対応
- 大規模授業、教室不足への対応としてオンライン授業を継続
- BYODとVDIの導入
BYOD (Bring Your Own Device)、VDI (Virtual Desktop Infrastructure)
- Siデータサイエンス教育プログラムへ

コロナ騒動：教員・学生の反応

- これまでと同様に取り組む教員と工夫を凝らす教員に2分化
- 前者は、超楽勝の授業となる。
- 工夫を凝らしすぎると、事前・事後の課題で教員・学生の負荷が高くなった。
- オンラインでは思った以上にグループワークがやりやすい。一方で、黙って参加しないことも容易にできる。参加しているフリが簡単。
- 参加者の意識がしっかりしている授業（例えば大学院）では、むしろやりやすいが、そうではない授業は、事前課題と事後課題をしっかり課す必要がある。FB負荷が高くなる。
- オンデマンドスタイル（いつでも見ることができる動画）は、倍速で聞き流すことが可能。
- 意識の低い学生は、周囲にばらまく ex.箱根駅伝

コロナ騒動：良くなった点と懸念材料

- オンラインスキルが向上した。
 - コンテンツの充実を意識する機会となった。
 - オンライン、オンデマンドのオプションにより、授業の選択肢が広がる。
 - 無理に出席を促したり、教員が無理に授業を開催するよりも、ハイブリッド型で展開が可能。
-
- FBの負荷が高くなり余力を生みにくくなった。
 - 対面での受け身の授業が耐えられなくなっている。
 - 過度のFBの要求、授業から学ぶよりも、楽しい授業をして欲しい。

コロナ騒動：専修大学が取り組むべき課題

- 当初の優位性をあっという間に失った。
- 「出席」重視からの転換
- 対面で参加する意義のあるコンテンツの充実
- なぜ、大学に行くのか？の意識づけを高める。
- 授業の質の改善・・・ファカルティデベロップメント

生成AI：大学の取り組み

- 2022年11月30日にChat GPTが公開。
- 2023年8月、学内のプログラムの中で以下の内容を発信
 - 「“生成AIは考えることを止めてしまうので使用しない”として禁止」するのではなく、「生成AIを活用することが今後の社会での必要なスキルになる可能性がある」という観点から、「現段階では様々な問題点を抱えていることを十分に理解しつつ、適切に使いこなすことにより、創造性あふれる高度なアクションプランを生んでいくもの」
 - 「引用」の対象として取り扱うこととし、特に「出所の明示」の観点から生成AIから引用した箇所について、出典を明らかにする注釈等を付してください。
 - 生成AIから得られた内容については、事実確認や裏付けを行っていただくようお願いいたします。
 - 生成AIに入力された情報は、文章の生成の素材として活用されるだけでなく、AIの学習にも活用されています。生成AIへの入力を通じて機密情報や個人情報が漏洩する可能性があるため、一般的なセキュリティ上の留意点として、機密情報や個人情報等を安易に生成AIに入力することは避けてください。

生成AI：教員・学生の反応

- chatGPTに代表される内容は、授業のレポートレベルでは、非常に良い解答を導くことができる。
- 探索の最初の一步としては、非常に優秀。
- 2023年は、生成AIを利用することを前提に授業を展開
- 提案型の授業では、確かに怪しいなというものがある
- 理由付け、裏付け作業、出所の明示、実際に説明させることを徹底
- 現状、卒論等においても、危機感は高くない。

生成AI：良くなった点と懸念材料

- 論理展開の構造がより明確になった。
- 出所の重要性の認識が広がった。
- 理由づけの深さは得意であるが、全体感（体系感）が希薄であるため、理論の把握が欠かせない。
- ますます自分で文章を書くことが不得手になっていく。Cf.プレゼン能力は向上しているが・・・
- スライド作りや、翻訳等、上手に使いこなすことで、作業の効率化が実現

生成AI：専修大学が取り組むべき課題

- 思考力の育成
- 情報探索・収集能力の向上
- AIを使う場面の取捨選択
- 倫理観の醸成
cf.ハラスメント対応

Thank you !